熊本市
Kumamoto City

表紙写真：平成 29 年 2 月 24 日撮影

平成二十八年熊本地震「震災の記録」　～　再起へ　～

熊本市



再起へ

平成二十八年熊本地震「震災の記録」



私たちの記憶を、くまもとの明日へ活かすために。

崩壊した熊本城の石垣はナンバリングされ、再生の時を待っている（平成29年2月24日撮影）

発刊によせて



「平成28年熊本地震」の発生から、間もなく一年を迎えます。
震災でお亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての皆様にお見舞い申し上げます。

また、発災直後から頂きました、全国、そして世界各国の皆様からの温かく力強いご支援により復興の歩みを進めていくことができておりますことに衷心より深く感謝申し上げます。

昨年４月、２度にわたる震度７クラスの地震が発生し、その後も余震が半年間で４千回を超えるなど、我が国観測史上初めての大災害となりました。

誰もがあの夜の恐怖に身を震わせ、自然の猛威の前に人間はいかに無力であるかを思い知らされました。一方で、日常から災害に備えることの重要性や、いざという時に地域全体で助け合うことの大切さなど、多くの教訓を得たところです。

実は、熊本市政が施行された明治22年に、今回の震災と酷似する「明治熊本地震」が発生し被災した経験があります。しかし、残念ながら今を生きる私達は、過去の震災の記憶や記録、教訓を活かすことが出来ませんでした。

今回の「平成28年熊本地震」の教訓を後世に伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であり、今後とも震災の記憶を決して風化させること無く未来への教訓とするとともに、災害に強いまちづくりのために、市民力、地域力、行政力を結集して取り組んでいかなければなりません。

そこで、本誌は、震災からの一年を振り返り、震災の記憶を留め、当時の様々な記録、体験等を後世に伝えるため、写真を中心に出来るだけわかりやすく編さん致しました。あの時、何が起こり人々はどのように行動したのか。そして、再起に向けてどのように立ち上がったのか。本誌が次代の人々の減災、防災対策の一助となれば幸いです。

本誌の編さんにあたり多大なるご協力をいただきました関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、復興を必ず成し遂げ、市民が安心して夢と希望を抱きながら生活できる「上質な生活都市」を築き上げることをお約束申し上げ、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

平成29年３月

熊本市長　大西　一史

０１　あの時、私たちは ―― P２
・・・ 市民の暮らしを襲った、大地の揺れ

０２　界隈の変貌 ―― P10
・・・ 街並みと生活の破壊

０３　熊本城と史跡たち ―― P20
・・・ 深く傷つき、再認識される四百年のドラマ

０４　インフラ・産業への被害 ―― P34
・・・ 都市機能を直撃したダメージ

０５　いのちを守る ―― P42
・・・ 水、食料、休息、温かさを求めて

０６　立ち上がる人々 ―― P50
・・・ 地域で、職場で、助けあって

０７　復興の力、全国・世界から ―― P58
・・・ 熊本に集まる、人間の優しさと逞しさ

平成28年熊本地震の概要 ―― P68
（１）地震の概要
（２）避難者・避難所数の推移
（３）被害状況
（４）宅地被害の状況
（５）被災者支援（り災証明書の発行）
（６）被災者支援（総合相談窓口）
（７）被災者支援（仮設等入居者）
（８）各種義援金等の受け入れ



01 あの時、私たちは

平成28年4月14日午後9時26分、そして、16日午前1時25分。
益城町周辺を中心に発生した２度の巨大な地震は、熊本市をも大きく揺らしました。
多くの市民、そして多くの観光客が強い衝撃を受けました。



02　白川公園に避難した地域住民たち　▮4月 16 日午前３時ごろ / 熊本市中央区▮



ホテルの外に避難した外国人観光客たち　▮4月 14 日午後９時 45 分ごろ / 熊本市中央区▮



余震が続き、店外で不安そうにする人たち　▮4月 14 日午後 10 時 45 分ごろ / 熊本市中央区▮



倒壊した金刀比羅神社の門　▮4月 14 日午後 10 時ごろ / 熊本市中央区 ▮



アーケードから走って逃げる人たち　▮4月 15 日午前 0 時すぎ / 熊本市中央区 ▮



路上に避難した人たち　▮4月 16 日午前 2 時ごろ / 熊本市中央区 ▮



倒壊した家屋　▮4月 16 日 / 熊本市南区 ▮



1階の駐車場部分がつぶれたマンション　▮4月16日午前4時50分ごろ / 熊本市中央区▮



1階ロビーに避難する市民病院の患者たち　▮4月16日午前4時10分ごろ / 熊本市東区▮



校舎が開放され避難している人たちが入っていく　▮4月16日午前3時45分ごろ / 熊本市中央区 五福小▮



西山中の校庭は車中泊の自動車で埋まった　▮4月 16 日夜 / 熊本市中央区▮



避難者があふれる熊本市役所ロビー　▮4月 16 日午後 / 熊本市中央区▮



▮4月 16 日 / 熊本市南区▮

あの日のもどかしさ

熊本保健科学大学　看護学科　徳永郁子

「水、近くで売ってる？」

断水、品切れで、いつ手に入るか分からない状況に焦りを覚え、郊外ならもしや、と４月16日の朝に知人が連絡してきた。可能な限り集めたボトルと、ポリ袋に水を入れ、箱に詰めて持たせた。私の家は一部損壊があったものの、ライフラインが閉ざされていなかったのが幸いした。

姉が運営する市内のホームホスピスでは、水不足で高齢の入居者の介護食作りに影響がでており、必需品のミキサーも洗えない状況であった。すぐに家の外にもコンロを持ちだし、フル稼働で家の畑にあった里芋を子供らと大鍋で煮て、出来るだけ多く野菜を入れたカレーを作り、青野菜を茹でた。

余計な洗い物を増やさなくて済むよう、それらを全てビニールに小分けした。水はクーラーボックスやクリアケースにポリ袋をかけて詰め込んだ。

断絶した道路による渋滞や混乱の中、道すがら、知人にも少しのおかずを配り、姉のもとへ到着できたのは夜だった。

出来る範囲での差し入れだったが、十分なことが出来たわけではない。相手が本当に必要なものを埋めてあげられないもどかしさがいつまでも残っていた。そんな気持ちだったのは私だけであろうか。



02 界隈の変貌

地震が起きて、尊い生命が失われ、多くの住宅や街のあちこちが壊れました。
見慣れた街並みは傷つき、私たちの暮らしも傷つきました。



県外から応援に来た判定士による応急危険度判定
▮4月 29 日 / 熊本市南区 ▮



倒壊した健軍商店街のサンリブ健軍店　▮4月 16 日午前 5 時 40 分ごろ / 熊本市東区 ▮



新町の家屋倒壊　▮4月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



家屋が倒壊し道路をふさぐ　▮4月17日 / 熊本市中央区▮



熊本市動植物園　▮4月19日 / 熊本市東区▮



1階部分が潰れた沼山津の集合住宅　▮4月20日 / 熊本市東区▮



沼山津の集合住宅　▮4月20日 / 熊本市東区▮



家屋の倒壊　▮ 熊本市南区 ▮



家屋の倒壊　▮ 熊本市南区 ▮



沼山津　▮ 4 月 20 日 / 熊本市東区 ▮



災害ゴミの山、消火栓が埋まりそうになっている　▮ 4 月 23 日 / 熊本市東区 ▮



共同墓地では墓石が倒れ、応急手当が行われていた　▮4月 26 日 / 熊本市中央区▮



建物の破損・崩落などにより車両通行止めがつづく熊本中央郵便局前　▮4月 28 日▮



倒壊した納屋　▮4月 28 日 / 熊本市東区▮



新町・古町最大の町屋「吉田松花堂」も破損　▮4月 29 日 / 熊本市中央区▮



マンションの連結部が分離している　▮ 熊本市中央区 ▮



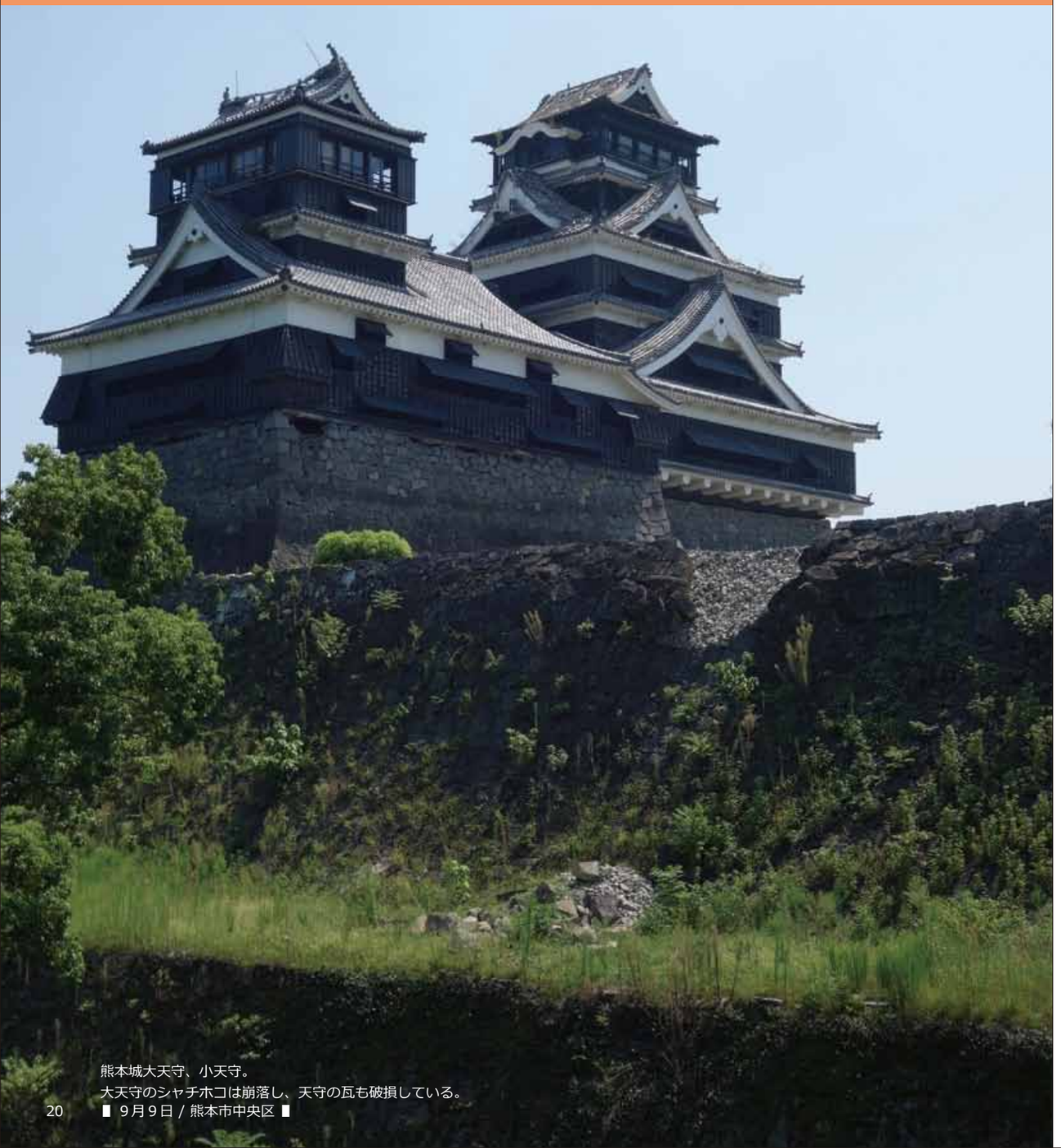
ブルーシートの屋根がつづく 熊本市東区周辺　▮ 5月４日 ▮



破損した渡り廊下を避けた避難ルートで行われる避難訓練　▮ 5月 10 日 / 熊本市東区 第二高校 ▮

03 熊本城と史跡たち

熊本市は長い歴史を持つ城下町です。
熊本城をはじめ、多くの歴史的な建物や文化的に重要な史跡があります。
地震は、それら熊本の宝にも大きな被害をもたらしたのです。



熊本城大天守、小天守。
大天守のシャチホコは崩落し、天守の瓦も破損している。
▮ 9月9日 / 熊本市中央区 ▮



100mにわたって倒れた熊本城長塀（国指定文化財）　▮ 4月 15 日 / 熊本市中央区 ▮



崩れ落ちた熊本城の石垣　▮ 4月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



崩壊寸前となった熊本城飯田丸五階櫓　▮4月 16 日 / 熊本市中央区▮



熊本城の被害状況を見つめる観光客　▮4月 30 日 / 熊本市中央区▮



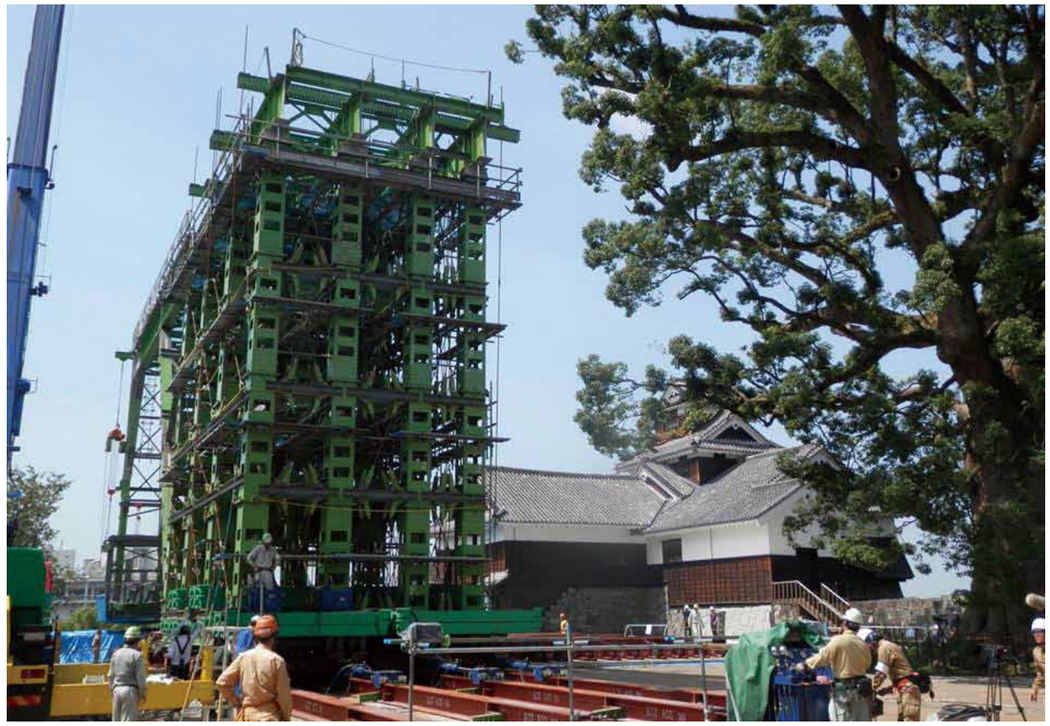
天守石垣の崩落　▮5月 11 日 / 熊本市中央区▮



熊本城内の報道機関向け公開（頬当御門周辺）　▮5月 11 日 / 熊本市中央区▮



飯田丸五階櫓の仮受構台　▮ 9 月 9 日 / 熊本市中央区 ▮



飯田丸五階櫓の仮受構台　▮ 9月9日 / 熊本市中央区 ▮



熊本城天守前広場の地割れ　▮ 5月 11 日 / 熊本市中央区 ▮



天守および宇土櫓周辺　▮ 平成 29 年 2 月 24 日 / 熊本市中央区 ▮



崩壊した石垣は復元のために管理されている　▮ 平成 29 年 2 月 24 日 / 熊本市中央区 ▮



崩壊したジェーンズ邸
▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 ▮
※下は震災前の姿





干上がった水前寺成趣園の池
▮ 4月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



水前寺公園での
災害復興ボランティア活動



復活した水前寺公園







外壁や壁の崩落などの被害を受けた
夏目漱石内坪井旧居
▮4月 26 日 / 熊本市中央区 ▮



徳富記念園（旧居）　▮ 4 月 26 日 / 熊本市中央区 ▮



横井小楠記念館（四時軒）　▮ 5 月 6 日 / 熊本市東区 ▮

熊本城の被害と復旧について

経済観光局　総括審議員　津曲俊博

熊本地震により熊本城では重要文化財建造物13棟及び天守閣をはじめとした復元建造物20棟の全てが被災し、石垣は全体面積の約30％に積み直す必要がある被害が発生しました。

私も被災直後の熊本城を目にしたとき、被害の激しさに大きな衝撃を受け、まさに言葉を失う状況でした。

そのような中、傷つきながらもそびえたつ天守閣のライトアップを6月1日に再開することができました。この姿が多くの皆様方の励みとなることを願っています。

現在は、石材や建造物の部材回収を進めるとともに、天守閣の復旧に取り組んでいます。

今後は、平成29年度までに、復旧の手順や工法及び復旧過程の公開などについて、計画期間を概ね20年と設定し「熊本城復旧基本計画」を策定いたします。

熊本城の復旧復元には長い年月がかかりますが、文化財としての価値を損なうことなく、かつ安全対策も考慮しながら復旧を進めてまいります。これからも皆様方のご支援をお願いいたします。



復興へ向けた作業が行われる熊本城を一望する　▮ 平成 29 年 2 月 24 日 / 熊本市中央区 ▮

04 インフラ・産業への被害

**道路、鉄道などの交通、多くの公共施設、あるいは水道やガスなどのライフライン。
行政機能も市民の生活も、安定したインフラ基盤あってこそです。
熊本地震はインフラや経済や雇用の基盤である産業にも
大きなダメージを与えました。**

地震発生後、渋滞する国道３号線
▮ ４月 19 日 / 熊本市北区 ▮



脱線した九州新幹線の復旧作業（全線運行再開は４月 27 日）　▮ ４月 18 日 / 熊本市西区 ▮



漏水した水道管の復旧作業　▮ ４月 20 日 / 熊本市東区 ▮



橋梁への被害　▮ 4月 17 日 / 熊本市南区 ▮



道路の地割れ、護岸の崩落　▮ 4月 19 日 / 熊本市東区 ▮



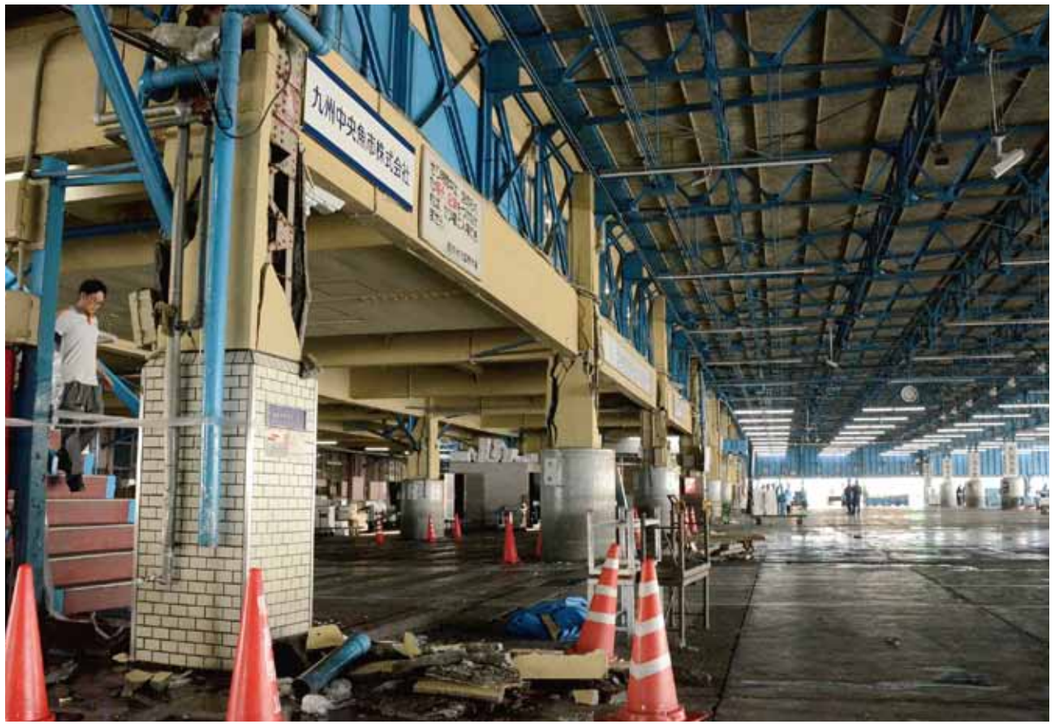
機材や天井が崩落した市民会館シアーズホーム夢ホール　▮ 4月 19 日 / 熊本市中央区 ▮



水道やガスが使えず、無料開放していた「大福湯」に並ぶ人たち　▮ 4月 20 日 / 熊本市中央区 ▮



営業再開後も品薄がつづくスーパーやコンビニ　▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 ▮



田崎市場では水産競り場が被害を受け、競りが休止。水産物や青果の流通に大きな障害が発生した　▮ 4月 19 日 / 熊本市西区 ▮



震災によって閉店した店舗も少なくない　▮ 5月7日 / 熊本市東区 ▮



大型 SC やスーパーでは休業がつづいた（ 写真はゆめタウンはません ）　▮ 5月 14 日 / 熊本市南区 ▮



工場内の復旧を進める
アイシン九州の作業員
▮ 5月 16 日 / 熊本市南区 ▮



5月 22 日に生産再開したルネサス
エレクトロニクス子会社の川尻工場
▮ 熊本市南区 ▮



職場の被災などにより混みあうハローワーク熊本　▮ 5月 11 日 / 熊本市中央区 ▮

災害に強いくまもとへ

熊本市上下水道事業管理者　　永目工嗣

４月の熊本地震によって、水道・下水道施設は甚大な被害を受けました。

特に、水道は32万６千世帯全てが断水するという未曽有の事態となりました。市民からの問い合わせは１日3万件にも上り、職員の初動、正確な情報把握にも影響をもたらしました。

そのような中、比較的早期に復旧ができたのは、国や県をはじめ、全国の事業体、管業界等から応急給水、漏水調査・修理、物資の支援など献身的なご支援があったからこそであり、誠に感謝に絶えません。

これから日本のどこで大規模災害が起きても不思議ではありません。熊本地震で明らかになった課題や教訓、今後の対策を全国の事業体等と共有していくことが、われわれの使命であり、支援に対するお礼になると思っています。

今後、市民のライフラインを預かる上下水道局として、この震災を契機に、「安心」「強靭」「持続」を目指し、高い目標を掲げ「災害に強いまち」となるよう邁進してまいります。

05 いのちを守る

**２度の地震が起き、多くの人々が過酷な時間を過ごすことになりました。
私たちがまず取り組まなければならなかったのは、
安全な場所、水、食料を確保すること。いのちを守ることでした。**

４月 16 日の発災直後、熊本市民病院では患者を１階ロビーへ避難。
生まれたばかりの赤ちゃんと母親の姿も。
▮ ４月 16 日午前４時すぎ / 熊本市東区 ▮



熊本地域医療センターでも入院患者を１階リハビリ室へ移した　▮ ４月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本市医師会館の駐車場に開設された小児科仮設診療所　▮ ４月 18 日 / 熊本市中央区 ▮



給水所で持参したポリタンクに水を貯める市民たち　▮ 4月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本市役所に設けられた水やパンの配給所　▮ 4月 16 日 / 熊本市中央区 ▮



一新小の給水所（給水しているのは日本水道協会佐賀支部の職員ら）　▮ 4月 17 日 / 熊本市中央区 ▮



車中生活に温もりを与えてくれた愛犬　▮ 4月 19 日 / 熊本市東区 ▮



駐車中の車に配布された
エコノミークラス症候群予防のチラシ
▮ 4月 19 日 / 熊本市東区 ▮



避難所巡回のためのミーティングを行う医師や保健師たち　▮ 4月 26 日 / 熊本市西区 ▮



発災直後、屋外に移送された入院患者の状況を調べる医療関係者　▮ 4月 16 日午前 2 時ごろ / 東熊本病院 ▮



食料や水を求めて並ぶ買い物客
▮ 4月 16 日 / 熊本市南区 ▮



熊本学園大学の避難所　▮ 4 月 20 日 / 熊本市中央区 ▮



城南総合スポーツセンターの避難所　▮ 5 月 26 日 / 熊本市南区 ▮



南区仮設住宅　▮ 6 月 8 日 ▮

市民のいのちを守る活動　～区役所での救護活動～

西区保健子ども課　清田千種

４月14日の前震直後から、区役所保健子ども課は、保健師を中心に保健子ども課職員で救護チームを数チームつくり、続々と開設される避難所を24時間体制で巡回しながら、救護活動と避難者の健康状態や避難所の衛生環境把握を行いました。

ガラスで足や手に怪我をした人や、倒れてきた家具などで打撲した方の手当てや救急搬送、高齢者や赤ちゃんの避難所での困りごと、余震への不安などに対応しました。

感染症やエコノミークラス症候群から避難者を守るために、予防方法の掲示や指導、消毒薬や衛生材料の配布も行いました。

本震の２日後、県内外から医療チームや保健師チーム、福祉関係チームなどが応援に駆けつけ、応援の力を最大限に活かすため、区役所対策部に医療救護の調整部を置いて、巡回救護活動を調整しました。

多くの応援を受けることで職員も力がわき、避難所からの帰宅支援、在宅の方々の健康支援活動へと進むことができました。

06 立ち上がる人々

熊本地震は大きな被害と強い悲しみをもたらしました。
しかし、人々は逆境に負けず、立ち上がり始めました。
避難所で、コミュニティで、商店街で、職場で。自分だけのためではなく、
まわりの誰かのために。あるいはもっと大きな何かのために。

朝食を受け取った人が濡れないように傘のトンネルをつくるボランティアたち
▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 江南中 ▮



プールの水をトイレ排水用としてバトンリレー　▮ 4月 17 日 / 熊本市北区 ▮



大西一史市長の支援を呼びかけるツイッターに 700 人を超える人々が集まった　▮ 4月 19 日 / 熊本市東区 ▮



避難所で食料を受け取る子どもたち　▮ 4月 19 日 / 熊本市中央区　一新小 ▮



車いす利用者の避難を受け入れていた熊本学園大学　▮ 4月 19 日 / 熊本市中央区 ▮



医療チーム（中央区保健子ども課）京陵中　▮ 4月 19 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本城被害状況視察　▮ 4月 20 日 / 熊本市中央区 ▮



避難所の江南中で活動する小中高生ボランティア　▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 ▮



上通アーケードでコーヒーを無料で配るコーヒー店スタッフ　▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 ▮



夜間の炊き出しを行うボランティアたち　▮ 4月 21 日 ▮



下通りアーケードに掲げられた「熊本がんばろう」　▮ 4月 26 日 / 熊本市中央区 ▮



中央区役所１階ロビーに設けられた罹災証明受付　▮ 5 月 21 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本城石垣撤去開始　▮ 6 月 7 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本シティエフエムに開設された臨時災害放送局　▮ 4 月 18 日 / 熊本市中央区 ▮

臨時災害放送局

株式会社シティエフエム　代表取締役社長　松本富士男

４月で開局20年を迎えた熊本シティエフエムは、４月14日の前震直後から地震情報中心の放送に切り替えた。４月18日から４月30日までは、熊本市が申請し認可された臨時災害放送局として24時間特別編成で放送を続けた。

内容は、行政及び各機関から届く情報、独自取材した店舗の営業状況・温泉情報等に加えて、リスナーから寄せられた様々なメッセージを紹介。日毎に変わっていく生活情報を中心に、心に寄り添う放送を心掛け、リスナー間をつなぐ中継塔としての役割も果たした。

また、言葉と音楽で被災者を励まし、癒やすことができるラジオの力を活かそうと、18日からはリクエスト曲も受け付け、22日から開始した熊本市立の小学校校歌へのリクエストは大きな反響を呼んだ。寄せられたリクエスト＆メッセージは5千通以上。

後日、総務大臣からお礼状が贈られた。20年間で積み上げた防災ラジオ局としての取り組みが、臨時災害放送局の運営につながったものと思われる。

07 復興の力、全国・世界から

復興への支援は日本全国から、世界から、送られてきました。
多くのボランティアの皆さんや著名人の方々が熊本に駆けつけてくれたほか、
自衛隊、警察、消防、電気、水道など専門家の皆さんが支援に来ていただきました。

全国からの救援物資が集まる「うまかな・よかなスタジアム」
▮ 4月 22 日 / 熊本市東区 ▮



避難所で給水する日本水道協会佐賀県支部スタッフ　▮ 4月 17 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本医療センターに届けられたアレルギー対応食　▮ 4月 21 日 / 熊本市中央区 ▮



花畑広場の受付会場に大勢のボランティアが詰めかけた　▮ 4月 22 日 / 熊本市中央区 ▮



ボランティアセンターの長蛇の列　▮ 4月 26 日 / 熊本市中央区 ▮



花畑広場で説明を受けるボランティアたち　▮ 4月 22 日 / 熊本市中央区 ▮



被災住宅の後片付けを手伝う大学生ボランティアたち　▮ 5月 1 日 / 熊本市東区 ▮



花畑広場で説明を受けるボランティアたち　▮ 4月 22 日 / 熊本市中央区 ▮

熊本市災害ボランティアセンターを運営して

熊本市災害ボランティアセンター長　中川 奈穂子

災害ボランティアセンターとは、今回のような大規模災害が起きた際、被災者が「元の生活を取り戻すために」その要望を聞き取りながらボランティアへの活動を紹介するところです。

今回は、全国からたくさんのボランティアの応援をいただき感謝するとともに、活動のご紹介ができない日があったという課題も残りました。ただ私たちは、被災者の方が「今日は都合が悪い」と言われれば、ボランティアを向かわせることはできないのです。

今後は、発災直後から活動できる場を想定することや時間とともに移り変わるニーズへの対応、多くの人にわかりやすい有効な情報発信などを心がけて次の災害への準備に取り組んでいきたいと考えています。

社会福祉協議会は、地域福祉を推進する団体ですが、今後は、地域福祉を推進するなかで「災害に強いまちづくり」にも携わっていきたいと考えています。



辛島公園に集まったボランティアたち　▮ 4月 30 日 / 熊本市中央区 ▮



西部ガスのもとに全国から集まったガス事業者たち



熊本市役所を訪れた自衛隊の災害派遣車両　▮ 4月 30 日 / 熊本市中央区 ▮



透析センターに給水する自衛隊の災害派遣車両　▮ 4月 17 日 / 熊本市中央区 ▮



ユニセフが第二高校に寄贈した大型テント。校舎が被災したため、授業などで活用された　▮ 5月 18 日 / 熊本市東区 ▮



うまかな・よかなスタジアムでの自衛隊員とボランティアの共同作業　▮ 5月 5 日 / 熊本市東区 ▮



上通アーケードを視察する安倍晋三首相と大西市長　▮ 4月 29 日 / 熊本市中央区 ▮



ケネディ駐日大使に熊本城の被害状況を説明する大西市長　▮ 4月 29 日 / 熊本市中央区 ▮



熊本出身の俳優・高良健吾さんが支援に訪れた
▮ 4月 18 日 / 熊本市西区 ▮



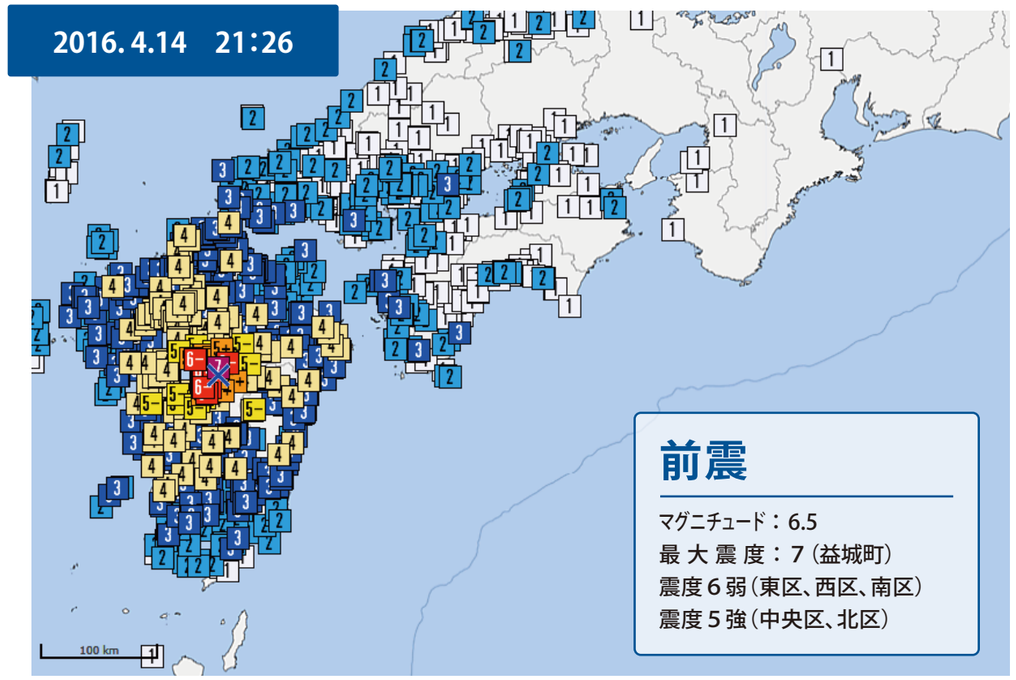
サッカー選手・香川真司さん
▮ 5月 24 日 / 熊本市東区 ▮



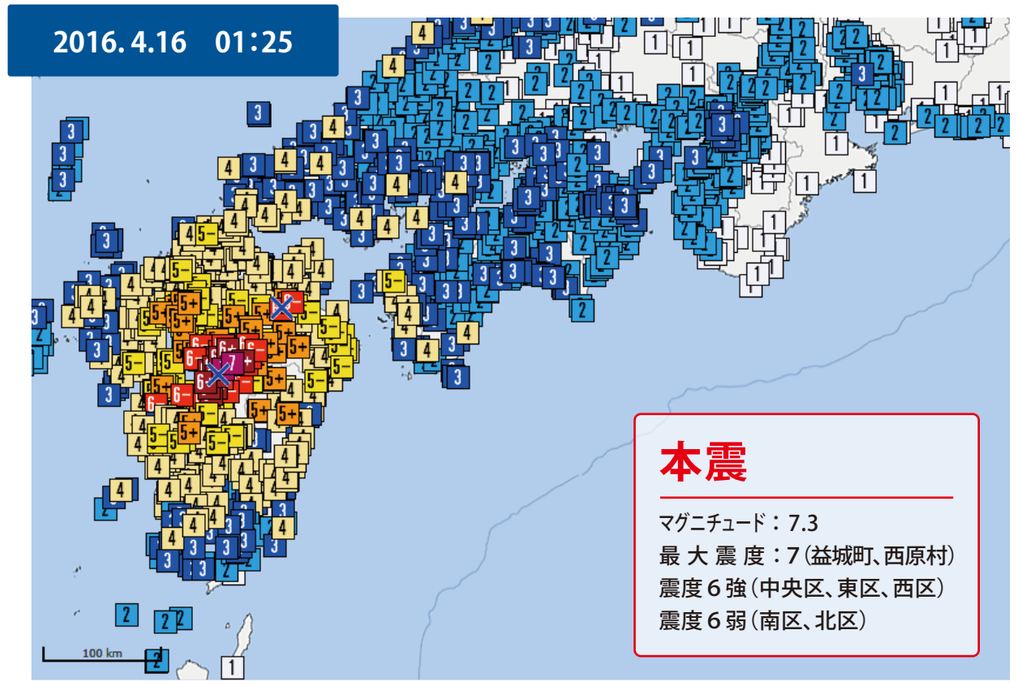
視察に訪れた小泉進次郎議員と大西市長　▮ 5月 8 日 / 熊本市 ▮

平成28年 熊本地震の概要

掲載された情報、数値、グラフなどはすべて平成29年１月31日時点のものです。



（気象庁ホームページより）

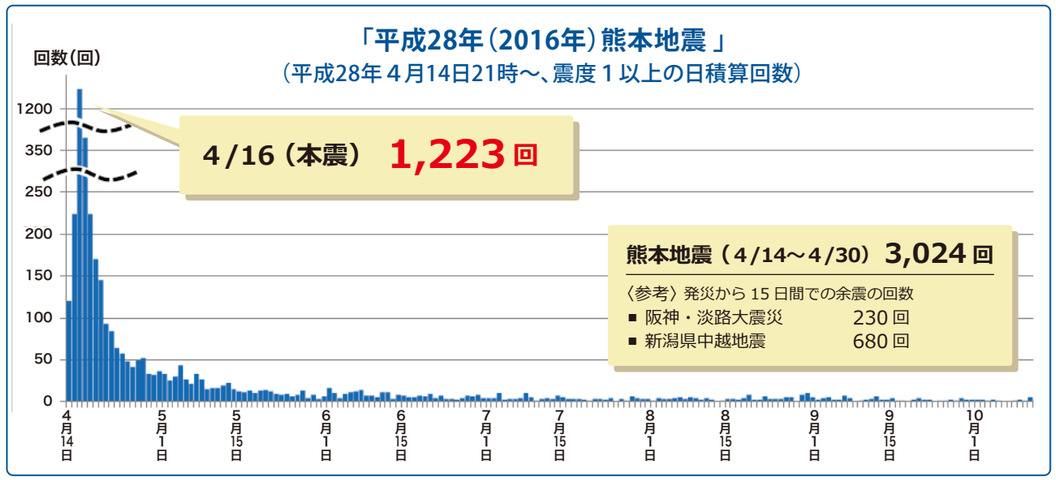


（気象庁ホームページより）

（1）地震の概要

地震回数の特徴

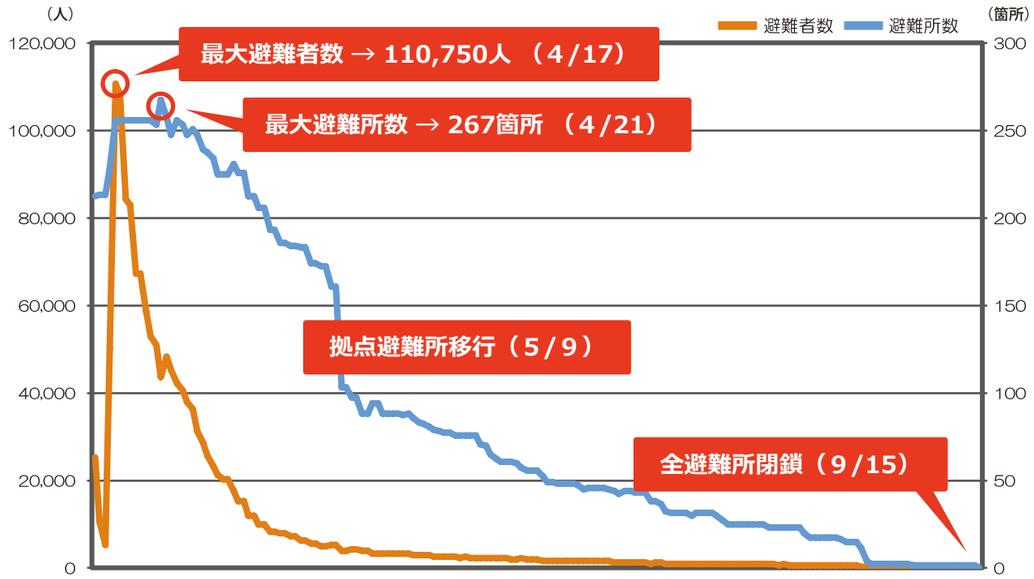
- 震度７の地震が立て続けに２回発生（観測史上初）
- 一連の地震で震度６弱以上の地震が７回発生（観測史上初）
- 余震の発生回数(累計)は、4,241回（平成29年１月31日現在 気象庁ＨＰより）



出典：気象庁

（2）避難者・避難所数の推移

- 本震発生（4/16 1：25）



出典：気象庁

（3）被害状況

- 人的被害（平成 29 年 1 月 31 日現在）
  - 死者　　：　64 人（直接死 6 人　関連死 58 人）
  - 重傷者　：　711 人

- 住家被害（り災証明書交付件数）（平成 29 年 1 月 31 日現在）
  - 全壊　　：　5,669 件
  - 大規模半壊：　8,795 件
  - 半壊　　：35,798 件
  - 一部損壊　：67,113 件

- 水道
  - 水源地等停止 96 箇所
  - 最大約 326,000 世帯が断水（4 月 16 日時点）　➡　4 月 30 日 通水完了

- 電気
  - 68,600 戸停電（4 月 16 日 6 時時点）　➡　4 月 18 日 午後復旧

- ガス
  - 1,123 戸供給停止（4 月 15 日 14 時時点）
  - 105,000 戸供給停止（4 月 16 日 5 時時点）　➡　4 月 30 日 供給開始

（4）宅地被害の状況

● がけ崩れ被害戸数（造成宅地変状箇所内の箇所を含む）

■ 世帯数を基に、被災宅地危険度判定結果などから被害戸数を算出（推計値）

約 4,300 戸

● 液状化被害戸数

■ 市民からの被害情報などから４地区（近見、土河原、中原、秋津町秋田）について基礎調査を実施し、被害戸数を把握。

約 1,600 戸

■ ４地区以外の被害戸数について、道路や下水道の公共施設等の情報を基に目視による現地確認を行った結果、液状化による被害と想定されたおおよその範囲において被害戸数を算出。

約 1,300 戸

計約 2,900 戸

■ 西区池田地区



■ 南区近見地区

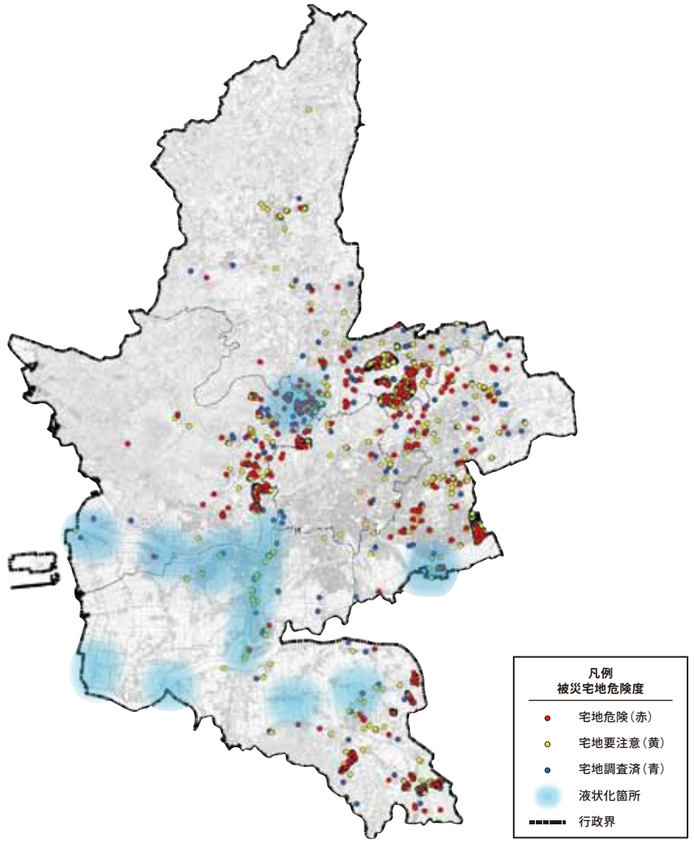


■ 中央区壺川地区



■ 南区近見地区





（5）被災者支援（り災証明書の発行）

● り災証明書の発行状況　（平成 29 年 1 月 31 日現在）

（1）住家

①１次調査

受付件数	調査件数
117,797件	117,384件

②２次調査

受付件数	調査件数
35,611件	35,025件

③交付件数

交付総数	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	損壊なし
117,384件	5,669件	8,795件	35,798件	67,113件	9件

（2）農水産業

申請受付件数	発行件数
2,708件	2,694件

（3）店舗、事業所等

申請受付件数	発行件数
27,767件	27,716件

（6）被災者支援（総合相談窓口）

災害見舞金等の生活再建支援に関する申請受付や各種相談に応じるため、被災者生活再建支援のための総合相談窓口を各区役所等に設置。

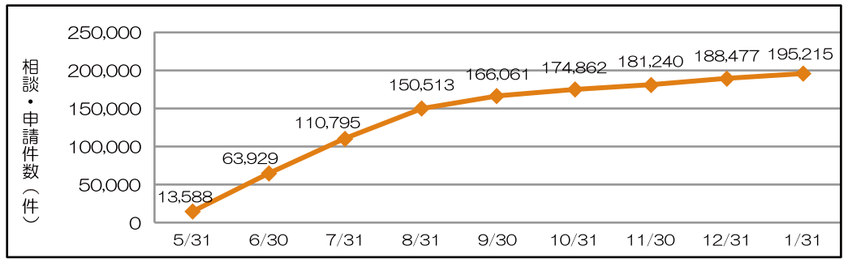
（1）総合相談窓口の内容（平成 29 年 2 月現在）

- 各種給付金（災害弔慰金・見舞金、災害義援金、被災者生活再建支援金 等）
- 被災住宅の応急修理
- 被災家屋等の解体・撤去
- 住宅融資相談
- 法律相談（弁護士・司法書士）

（2）相談・申請件数（平成 28 年 5 月 17 日～平成 29 年 1 月 31 日まで）

	中央区	東区	託麻総合出張所	西区	南区	城南総合出張所	北区	合計
相談・申請件数	58,708 件	52,049 件	17,285 件	22,406 件	17,851 件	10,667 件	16,249 件	195,215 件

(注)上記件数は各種給付金に関するもののみ集計



（3）義援金、見舞金等の支給状況等 （平成 29 年 1 月 31 日現在）

	申請件数	支給件数等	支給率等	支給額等
① 災害弔慰金	216 件	64 件	29.6%	223 百万円
② 災害障害見舞金	27 件	1 件	3.7%	3 百万円
③ 災害見舞金	50,460 件	49,031 件	97.2%	1,582 百万円
④ 災害義援金	52,677 件	49,311 件	93.6%	22,074 百万円
⑤ 被災者生活再建支援金	18,798 件	18,283 件	97.3%	14,888 百万円
⑥ 災害援護資金の貸付	422 件	383 件	90.8%	620 百万円
合 計	122,600 件	117,073 件	95.5%	39,390 百万円

（4）被災家屋等の解体・撤去（平成 29 年 1 月 31 日現在）

受付件数			着手件数
公費解体	自費解体	合計	
8,875 件	3,300 件	12,175 件	2,675 件

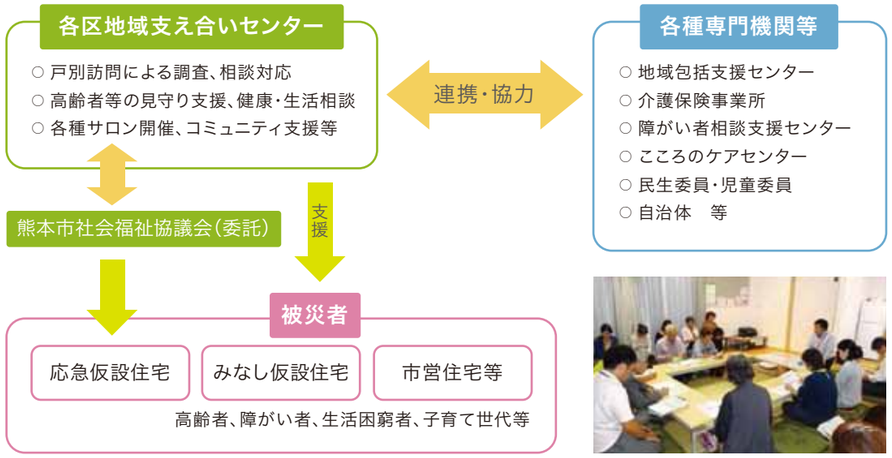
（5）被災住宅の応急修理（平成 29 年 1 月 31 日現在）

受付件数	完了件数
15,742 件	6,437 件

（7）被災者支援（仮設等入居者）

● 住宅の提供及び入居者への支援

被災者がそれぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、孤立防止等のための見守りや、日常生活上の相談支援、生活支援、住民同士の交流の機会の提供等を行い、被災者に対する総合的な支援体制を構築。



1）住宅の提供状況（平成 29 年 1 月 31 日現在）

種別	募集・提供戸数	入居戸数
プレハブ仮設住宅	541戸	529戸
民間賃貸住宅借上（みなし）	8,633戸	8,099戸
市営住宅	723戸	541戸
特定優良賃貸住宅	48戸	45戸
サービス付き高齢者向け住宅	15戸	8戸
国家公務員住宅	84戸	54戸
雇用促進住宅（市内のみ）	314戸	100戸
合 計	10,358戸	9,376戸

2）世帯状況（平成 29 年 1 月 31 日現在）

	訪問世帯（実数） A	回答世帯 B	分類Ⅰ 自立 C	分類Ⅱ 福祉支援 D	分類Ⅲ 住宅支援 E	分類Ⅳ 福祉及び住宅支援 F	分類Ⅱ～Ⅳの割合
中央区	1,737	1,378	702	221	222	233	49.1%
東区	2,370	2,000	1,125	341	302	232	43.8%
西区	818	680	356	111	128	85	47.6%
南区	1,475	1,090	640	97	240	113	41.3%
北区	989	811	385	151	158	117	52.5%
合計	**7,389**	**5,959**	**3,208**	**921**	**1,050**	**780**	－
割合	－	80.6%	53.8%	15.5%	17.6%	13.1%	46.2%
		B/A	C/B	D/B	E/B	F/B	(D+E+F)/B

（８）各種義援金等の受け入れ

①熊本地震復旧・復興寄附金

学校や道路の再建など、熊本市が行う災害復旧・復興事業の財源として活用

②平成28年熊本地震への義援金

熊本市内で被災された方の生活支援や再建のため、被災の程度に応じて配分

③熊本城災害復旧支援金

熊本城の修復再建のために活用

④復興城主

熊本城の修復再建のために活用

⑤くまもとエンタメ支援金

文化ホールの早期復旧、熊本市が開催するコンサート等の復興イベントに活用

⑥熊本市民病院寄附金

熊本市民病院の復興事業に活用

受入額（平成29年１月31日現在）

		金額	件数
① 熊本地震復旧・復興寄附金		856,489,760 円	2,923 件
② 義援金	県配分額	21,959,500,000 円	—
	市受入分	1,493,730,751 円	18,769 件
③ 熊本城災害復旧支援金		1,532,569,974 円	10,544 件
④ 復興城主		709,034,770 円	42,601 件
⑤ くまもとエンタメ支援金		130,903,439 円	192 件
⑥ 熊本市民病院寄附金		19,054,632 円	30 件
合　計		26,701,283,326 円	75,059 件

平成二十八年熊本地震「震災の記録」

－再起へ－

発行：平成29年3月31日

熊本市政策局 総合政策部 広報課

〒860-8601 熊本市中央区手取本町１番１号
TEL：096-328-2043（直通） FAX：096-324-1713